

審査の結果の要旨

論文提出者 横田吉昭

論文題目「国民国家形成期のトルコにおける「国民的」漫画キャラクターの誕生と意義——伝統と近代の間に描かれた人物形象が獲得した自立性と表象機能」

本論文は、トルコ国民国家形成期の1930～40年代にトルコ人漫画家ジェマル・ナーディルが創り出したアムジャベイというキャラクターが圧倒的な人気を博し、のちにナーディルが「国民的」、「民族的」な芸術家と評価されたのはなぜか、アムジャベイというキャラクターが表象していたのは何かを解明する。イスラーム文化のもとでは図像表現が希薄であり、トルコにおいて漫画は19世紀末のオスマン帝国時代に西洋から導入されたものであったにも拘わらず、なぜアムジャベイという人気キャラクターが成立し得たのか。その謎を解くには、ナーディルの漫画が現れたのがトルコの国民国家形成期であり、「国民」および「民族」というナショナリズムの構築が必要とされていた状況に注目しなければならぬとして、本論文は、アムジャベイというキャラクターがどのように「国民」と「民族」を表象し、当時のトルコにとってどのような意義を持ち得たかを解明する。

本論文は序章・終章を含めて全7章から構成され、本文A4判197ページ、参考文献18ページ、資料編184ページから成る。

序章「トルコにおける漫画の状況と問題の所在」では、共和国成立後のトルコでは、国民国家の要素となる民族意識の醸成と国民の紐帯となる文化が必要とされ、イスラームを脱し、近代的でありながら西洋の模倣ではない、国民意識につながる民族的要素を持つ文化芸術が模索されたことが論じられ、その中でナーディルの漫画が国家にとって望ましい「国民的」かつ「民族的」な芸術と称揚された経緯を確認した。

第1章「オスマン帝国末期からトルコ共和国建設期にかけての近代化改革と漫画の展開」では、当時の政治的状況を詳細に確認しながら、ジャーナリズムと共に漫画も批判的メディアの一つとして拡充し、比較的高尚な文化分野としての位置を得たことを論じ、同時に共和国成立後には政権への批判が困難となったために、ナーディルが帝国時代のものと異なる題材の漫画を描き始め、人気を獲得した経緯を詳細に辿った。

第2章「国民的漫画家ジェマル・ナーディルの確立と「国民」の「生活」」では、ナーディルの漫画の「国民」の姿の描出法を分析し、彼の漫画が、政府が主導するトルコ共和国形成期の文化形成では果たし得なかった、西洋近代文化に「民族性」を重ねるという「国民文化」を庶民の「生活」を描くことで示し得たことを考察した。さらにアムジャベイは、庶民の不満や実感を導き出す仲介者としての役目を担ったことを解明した。

第3章「第二次世界大戦期およびその後のジェマル・ナーディルの漫画」では、戦時体制

下にナショナリズムが前面に出る状況でナーディルへの「国民的」評価が強化されたことを論じた。その要因には、トルコが戦時統制政策をとりながら終戦直前まで中立を保持した点がある。その状況下で、彼はアムジャベイによって、統制経済によって生活を圧迫された庶民を慰撫し続けた。さらに戦争への風刺や平和の希求といった題材が加わりトルコの漫画界自体も活性化し、ナーディルには戦争とファシズムの批判者という面が加味されたのである。

第4章「『国民』表象たり得なかった漫画作品」では、帝国時代から存在していた影絵芝居カラギョズの図像を流用した漫画と、同時代のラミズ・ギョクチェによる人気女性キャラクター、トンプル・テイゼが、「国民的」な評価を得られなかった理由を検証した。逆に言えば、これらのキャラクターが持たない、社会的な近代性と庶民的な「民族性」が、アムジャベイの特徴となるのである。

第5章「ジェマル・ナーディルの漫画の『国民生活』と『民族性』の表出構造」では、アムジャベイを主とするナーディルの漫画がトルコの庶民的で伝統的なユーモア表現を継ぐ部分があったことを解明し、彼の漫画がカラギョズ芝居や伝承民話の主人公ナスレディン・ホジャを継ぐ側面があったことを示した。つまりナーディルは、伝統的なユーモア表現を漫画に再生し、それが「民族的」な要素となったのである。また、ナーディルの漫画の曲線に見られる丸さに注目し、これがナーディルが習得していた伝統的美術のアラビア文字カリグラフィと共通することも指摘し、その画法が「民族的」伝統を踏まえたものであることも指摘した。

終章「結論——その後のトルコの漫画を概観しながら」では、それまでの考察をまとめ、トルコで共和国形成期に、国家が要請する文化に馴染めない庶民は、自分達が本来帰属してきた部分を持つ文化の中に居場所を求めたのであり、その場所とはアムジャベイという仲介者が存在するナーディルの漫画だったと結論づけた。

本博士論文は、日本初の本格的なトルコの漫画研究として画期的であり、非常に意義深い力作である。アムジャベイを描いた漫画を丹念に集めた資料編も貴重である。特に本論第5章の漫画分析は優れており、アムジャベイの描線が丸いことに注目し、アラビア文字カリグラフィとの類似を指摘するといったオリジナルな分析も高く評価されるべきであろう。但し、審査会では、以下のような論述の不十分さに対する疑念も呈された。①トルコ政治史に関して誤謬が含まれており、修正が必要な部分がある。②トルコ語の翻訳に見直すべき箇所がある。③アムジャベイが表象したとされる「庶民」とは誰を指すのか、そのイメージもまた構築されたものであるという認識が必要であり、上流中産階級を示す衣裳を着たアムジャベイが単純に「民衆」に寄り添っているという議論は、より精緻にする余地がある。④漫画の個々のイメージ分析がやや少ない。しかし、以上の問題点は大きなものではなく、本論文の学術的価値を損なうものではないと結論づけられた。

したがって、本審査委員会は、全委員一致で、本論文提出者に博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。